

7月



# 園だより

令和4年6月28日  
佛教大学附属幼稚園

「仏教保育7月のねらい」  
布施奉仕

「目に見えないありがたさに気づく(学生のことば)」

園長 佐藤和順

今年度4月より、佛教大学に教育学科の幼保コースを発展、独立させ、幼児教育学科が開設されました。授業の課題として、園の保育目標を家庭と共有することを目的として学生に月の保育目標にちなみ、文章を作成してもらいました。今月そして9月は「学生のことば」を紹介させていただきます。

幼児教育学科1年生川本莉歩さんの「ことば」です。

梅雨の鬱陶しさとともに本格的に夏の暑さが予感できるようになってきました。日々の暑さに大人も子どもも疲れが溜まってくる頃だと思います。そんな時こそ虫の声や夏の夕焼けなど小さな夏の幸せに気づき、子どもとたくさん夏を感じていければと思っています。

さて、今月の保育目標は「布施奉仕(ふせほうし)誰にでも親切にしよう」です。どんな人間も一人きりでは生きていくことはできません。必ず誰かの助けや自然の恵みを楽しみながら生きているのです。日々暮らしていると、社会や自然がどれだけありがたい存在であるかを、意識しなければつい忘れがちになってしまいます。しかし、少しのきっかけでお世話になっているものに気づくこともあるのです。

先日、大学の授業で「いただきます」の意味について考える機会がありました。普段から食事の際に、習慣として口にしてはいる言葉ですが、その意味を毎度考えて使っている人はあまり多くないのではないかと思います。そういう私自身もあまり意識していませんでした。しかし、「いただきます」の挨拶には、料理を作ってくれた人への感謝、食材の命への感謝など、様々なものへの感謝するという意味が込められています。衣食住の中でも特に生命活動と関係することの多い「食」の中で、いつも食べている肉や魚、野菜にも命があって、それを自分の命のためにいただいているということを意識すれば、その食べ方、自然や社会のありがたさにも気づけるのではないかと思います。食べ物以外でも、世界では命の危険にさらされている人々がいる中で、自分が恵まれた環境にいることの幸せなど、目に見えないありがたさもあります。今の幸せが必ずしも当たり前で存在するものではないということを認識することで、そのありがたさに感謝することができると思います。そこから他人に親切にすること、そのことがひいては社会を明るくすることに気づきたいものです。

常日頃からこのようなことをずっと意識することは難しいかもしれません。時々立ち止まってそのありがたさに気づき、他人に親切にすることを再度、認識することが大切だと思います。まさに情けは人の為ならずです。

